

# 平成 29 年度学校評価

## ～学校関係者評価委員会報告書～

学校法人誠和学院 日本工科大学校

### 1 学校評価の考え方

(1) 多面的学校評価 p 1

(2) P D C A サイクルを踏まえた学校評価 p 2

### 2 学校自己評価結果

(1) 学生評価（学生アンケート） p 3

(2) 平成 29 年度 学校改善評価結果 p 9

(3) 平成 29 年度 学校改善評価の考察 p13

(4) 学校改善評価に基づくアクションプラン 2018 p15

3 学校校関係者評価委員会の概要（意見要旨） p17

学校法人誠和学院 日本工科大学校

社会が求める人材の育成

即戦力となる人材を育成する専門力教育

- ・専門的な知識・理解の指導
- ・実務的な技能の指導
- ・職業人として必要なスキルの育成
- ・長期インターンシップの実施
- ・企業等と連携した教育諸活動の推進 等

自律とモチベーションを養う人間教育

- ・自律性や自立心の涵養
- ・協調性や協働性の育成
- ・社会規範や礼儀作法の遵守
- ・向上心や勤労意欲の喚起
- ・権利と義務の適正な行使 等

多面的な視点で学校評価を実施

自己の職務遂行  
の目線から評価

自己職務評価

職域の組織的協働  
の目線から評価

職域協働評価

組織の一員として  
の目線から評価

学校改善評価

カスタマーである学生  
の目線から評価

学生評価

【評価内容例】

- ・職務目標
- ・自己研鑽目標
- ・資格取得目標
- ・営業目標 等

- ・即戦力育成プラン
- ・人間力育成プラン
- ・営業成果と課題、  
対策 等

- ・教育内容
- ・教育課程
- ・学生生活、
- ・就職・進学
- ・資格取得 等

- ・指導体制
- ・指導方法
- ・カリキュラム構成
- ・資格取得
- ・進路指導 等

【評価・分析・考察の工夫】

管理職が個人面  
談し取組みの評  
価と助言

各職域の評価・分析  
結果を全教職員で協  
議し、対策を共有

評価・改善が必要  
なコアコンピタン  
スを重点評価

全体的な評価に加  
え、教科ごとに評  
価し課題を明確化

学校関係者評価委員会

評価結果の公表

## PDCAサイクルを踏まえた学校評価

### Plan (計画)

- 学校経営基本方針の策定  
教育目標、教育計画、各種事務推進計画等
- 学修指導の重点項目やカリキュラムの策定  
企業等が参画する教育課程編成委員会の意見を反映
- 改善行程表に基づき改善策を策定・推進

### Action (改善)

- 多面的学校評価結果と学校関係者評価を踏まえた改善行程表の作成
- 企業等が参画する教育課程編成委員会で学修指導やカリキュラムの改善の方向性について検討
- 学科・職域組織自己評価及び教職員自己評価の改善 (次年度目標設定)

### Do (実施)

- 即戦力となる専門性の育成
- 職業人としての人間力の育成
- アクティブラーニング等の指導方法の工夫
- インターンシップの推進
- 企業等と連携した教員の授業力の向上
- 資格取得率を高める工夫 等

### Check (点検・評価)

- PDCAサイクルを踏まえた多面的学校評価の実施
  - ・評価①：自己職務評価  
各教職員が職務や自己研鑽、資格取得率等の目標を設定し、自己評価する。
  - ・評価②：職域協働評価  
職域ごとに人間力や即戦力などに関する組織目標を設定し、協働した取組みの達成度について自己評価する。
  - ・評価③：学校改善評価  
教職員が学校の教育内容や方法などの改善の必要性について評価する。特に、コアコンピタンスに重点を置き評価する。
  - ・評価④：学生評価  
学生が教職員の授業内容や指導方法、学修環境などについて評価する。
- 学校関係者評価委員会の開催  
多面的学校評価結果を踏まえた改善の方向性についての意見を聴取する。
  - ・委員：企業関係者、保護者、卒業生、高校関係者等
- 評価結果をホームページ等で広く社会に公表する。

# 2017年度学生アンケート

日本工科大学校

## 学生アンケートについて

### 1 目的

本校学生の現況を理解して、次への改善につなげる

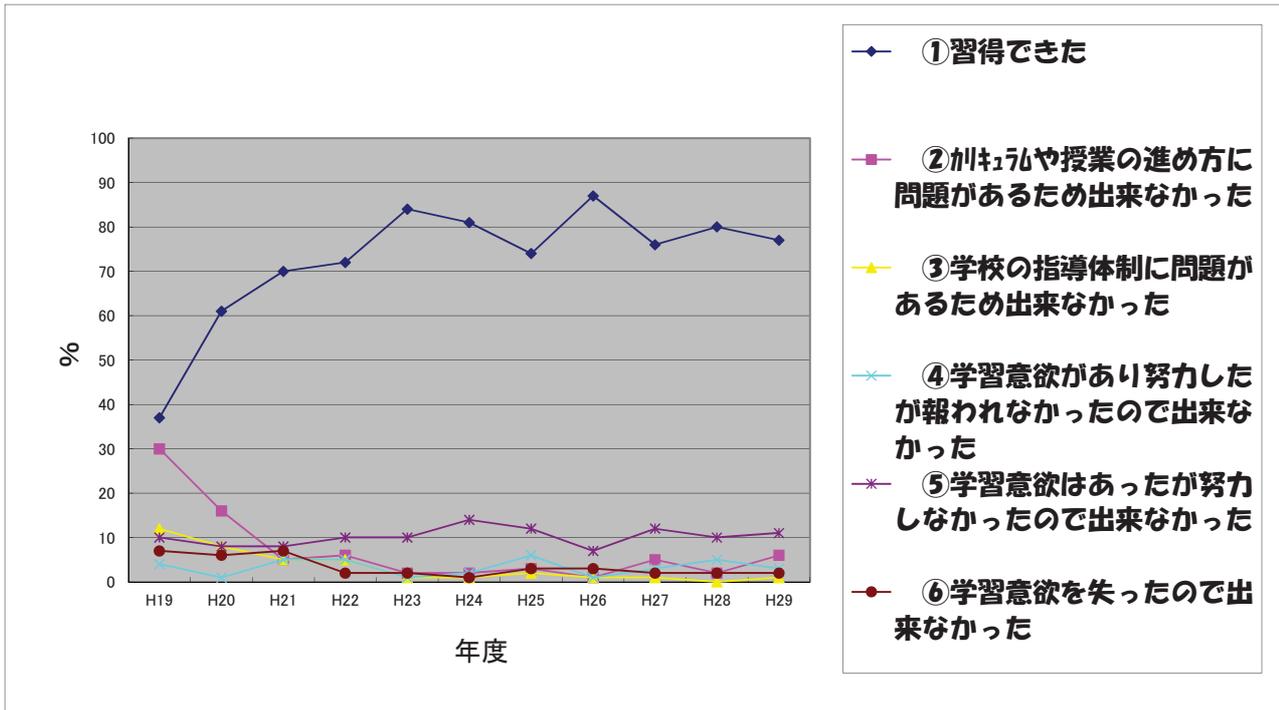
### 2 内容

毎年、同じ時期(1月末)、同じ内容についてアンケートを取る

### 3 方法

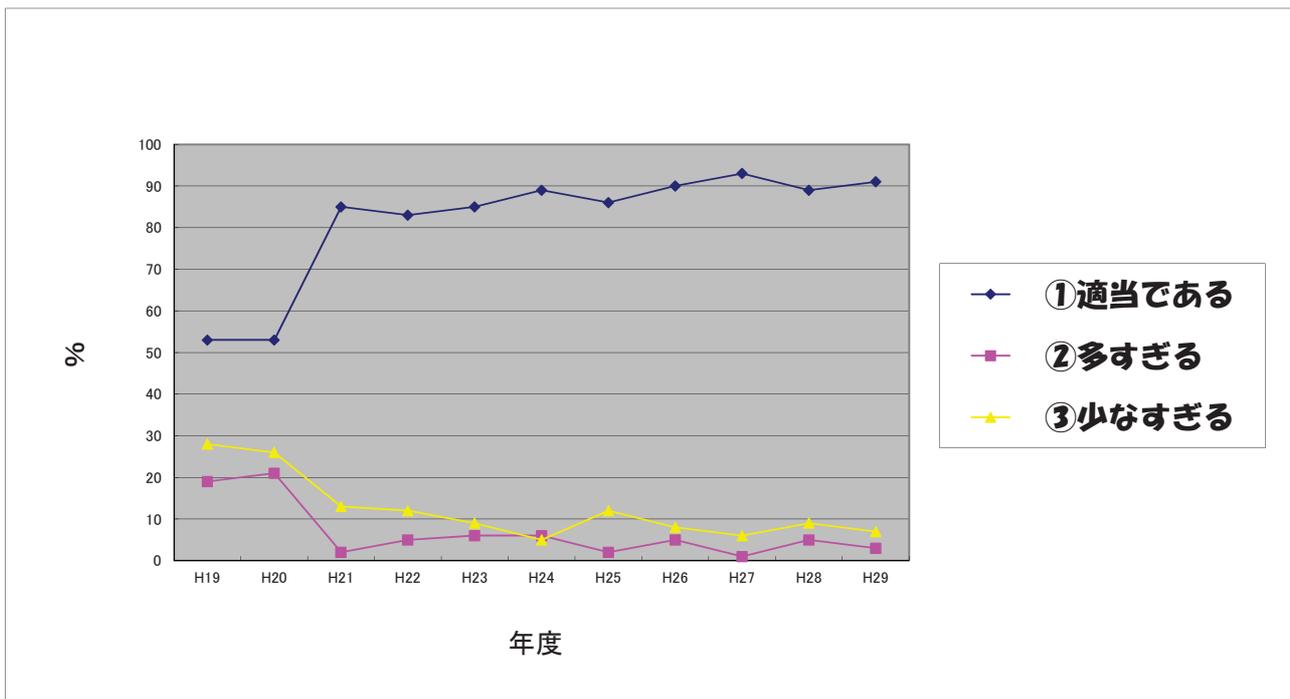
担任以外の先生方が行う

# 新しい知識を習得できたか



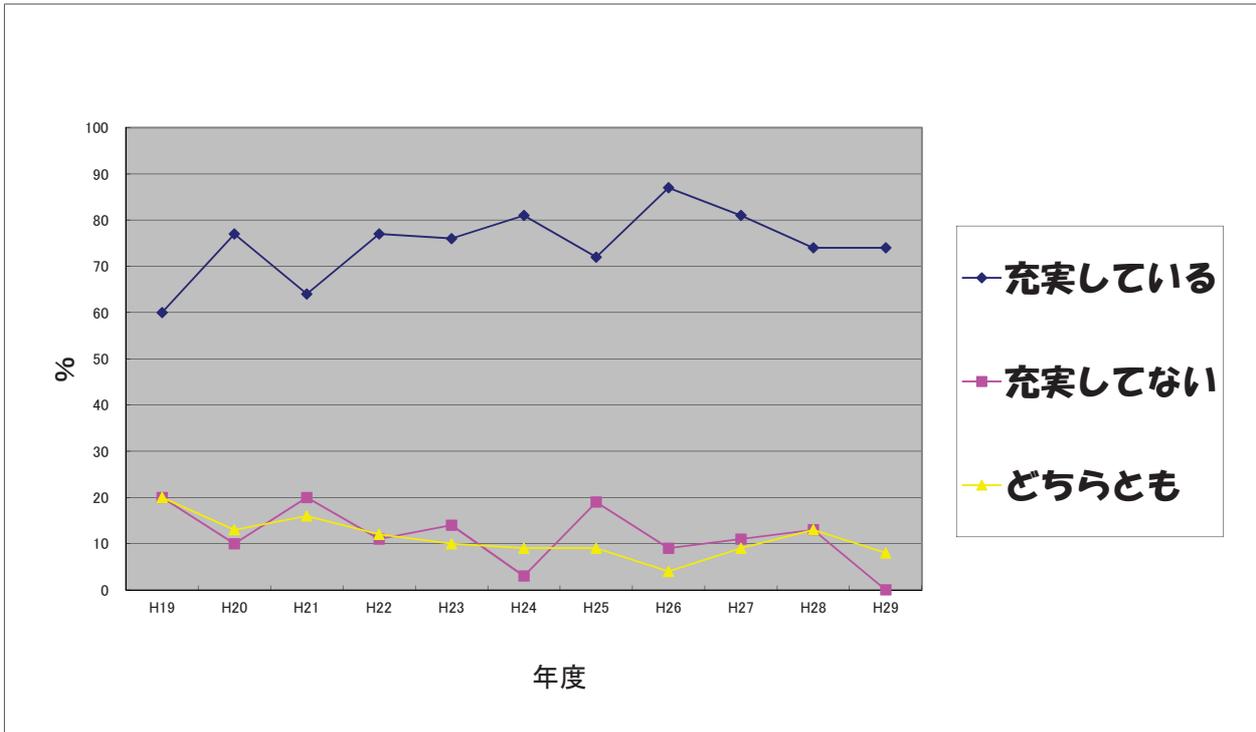
→学科によって変わるが、全体として約80%の学生が習得できたと判断

# 目指す資格の数



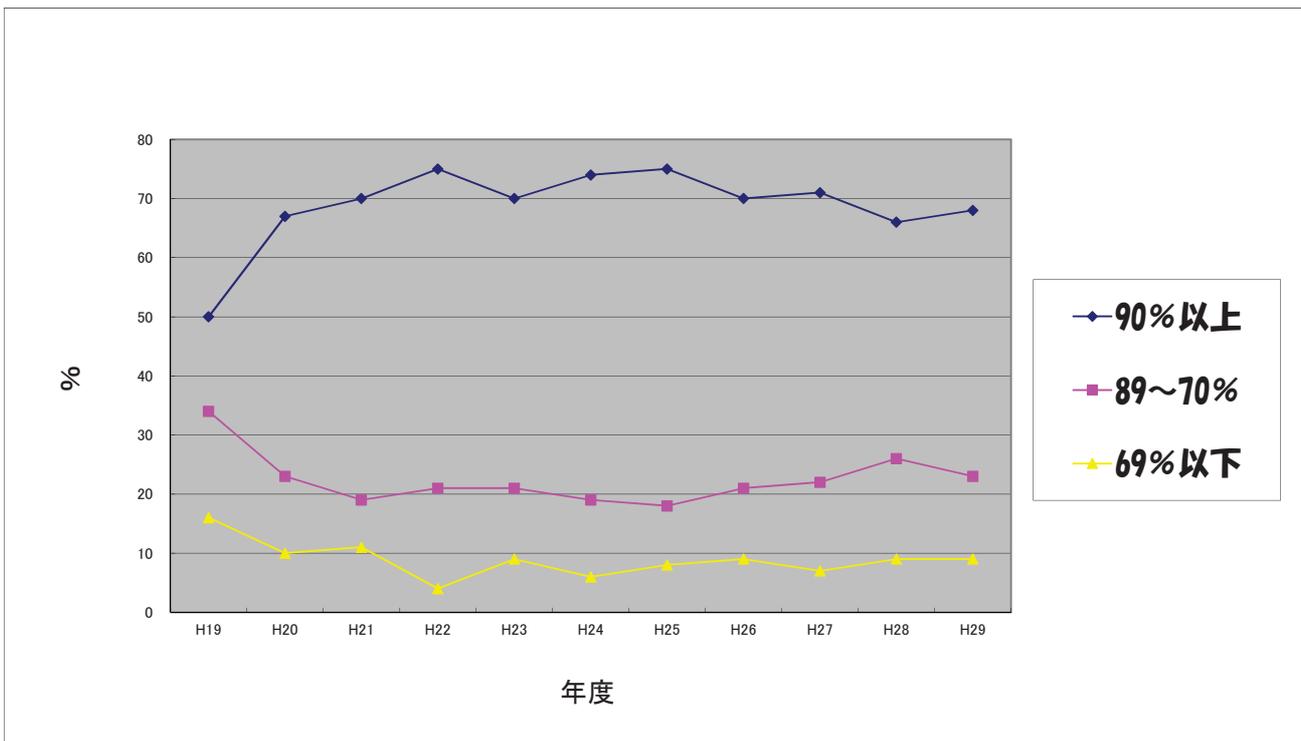
→約90%の学生が「適当な数」と判断

# 学校生活は充実しているか



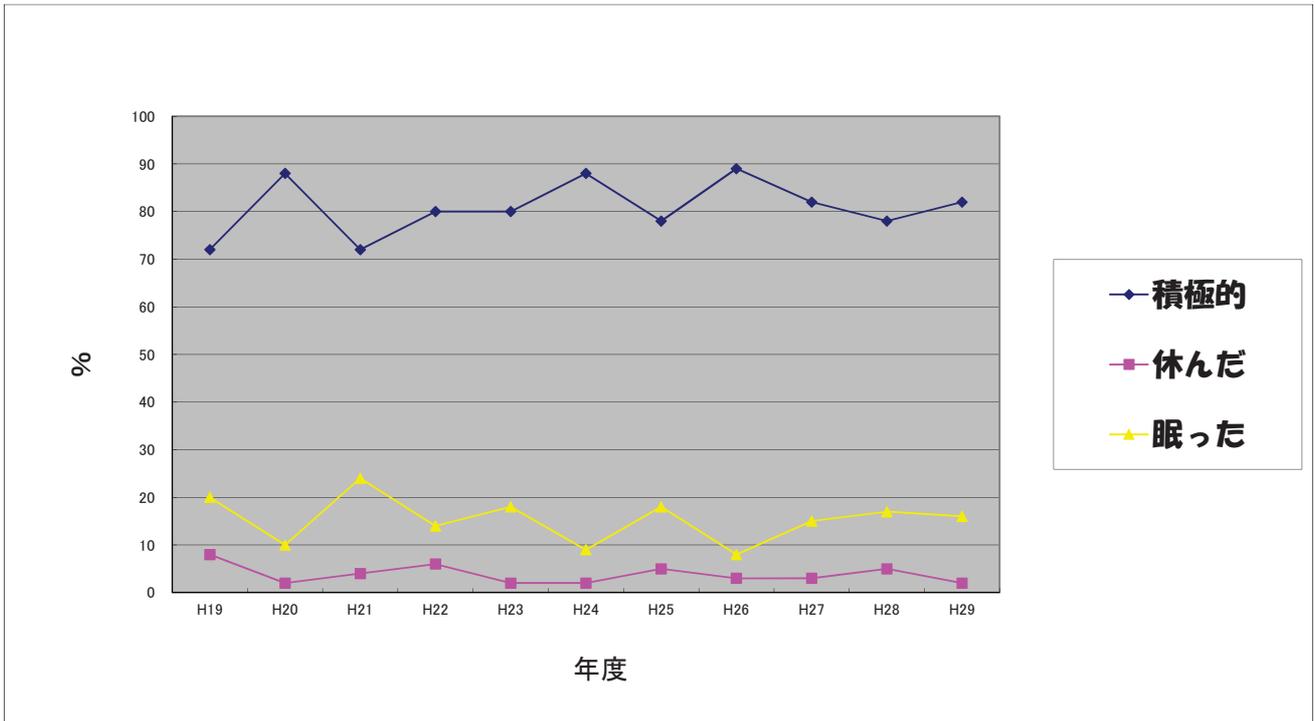
→今年度は「充実していない」がゼロ、約70%の学生が「充実している」

# 出席率



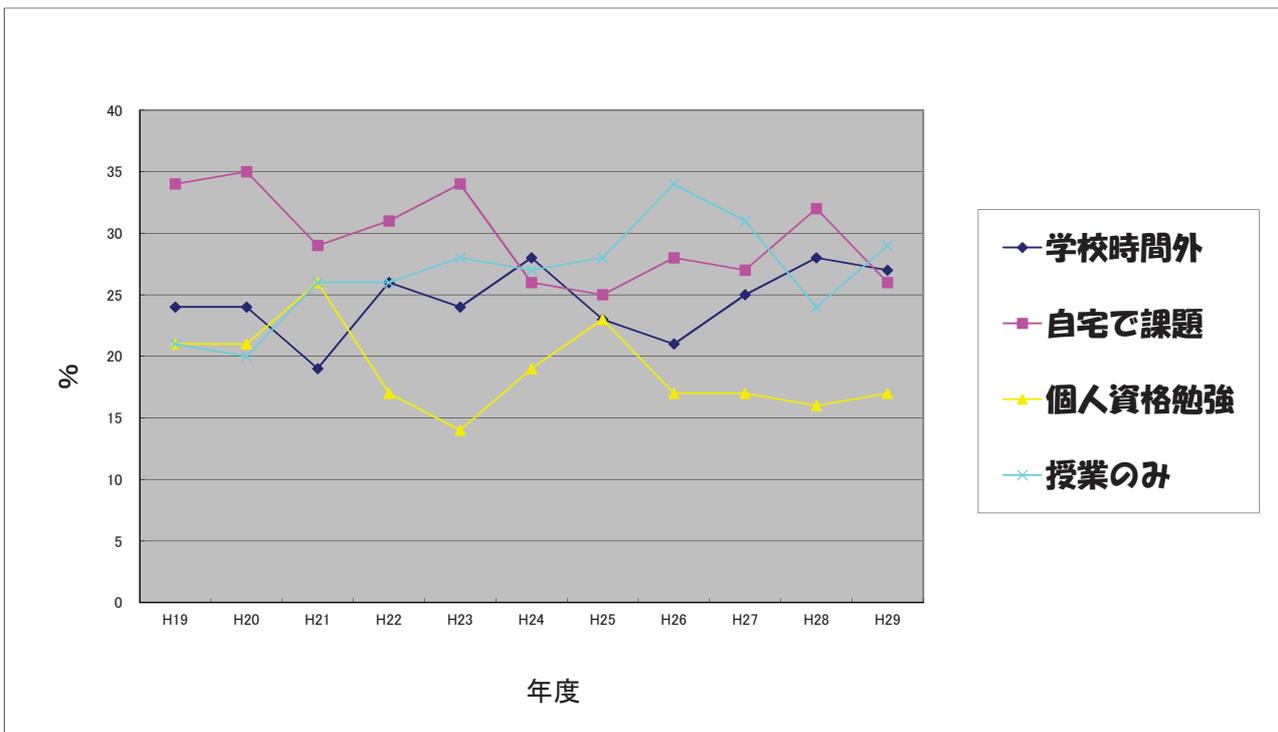
各科、各学年により異なるが、全体としては今年度も出席率90%以上の学生が約70%

# 授業参加は積極的か



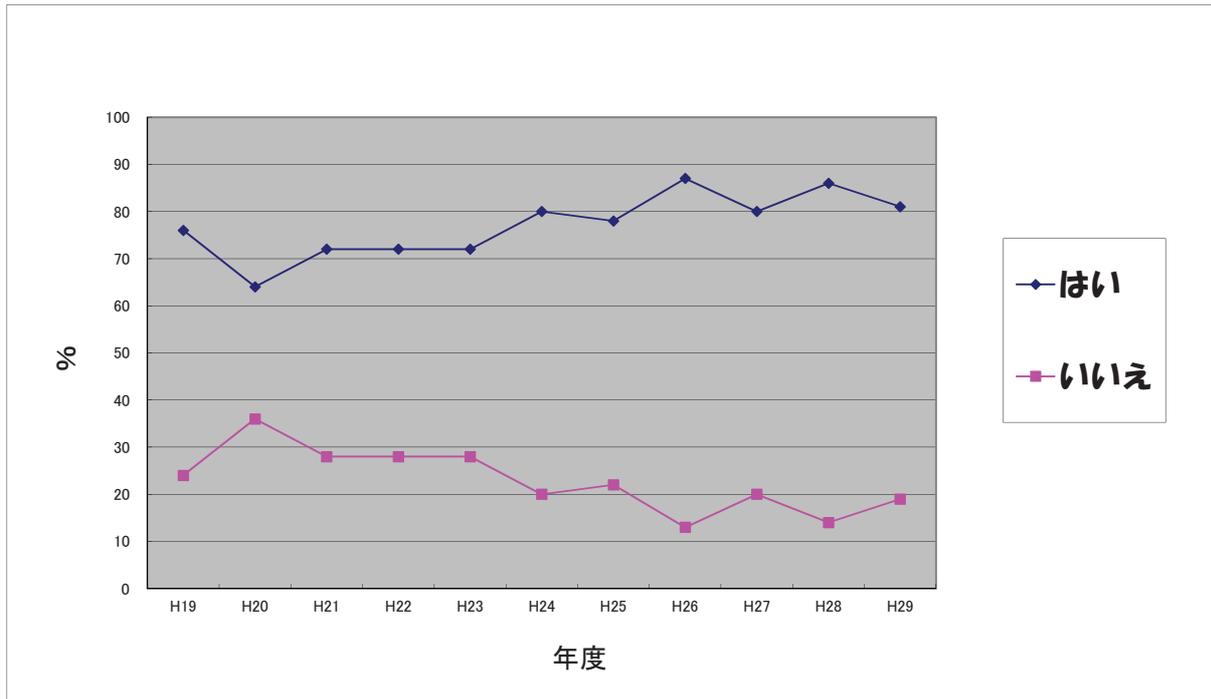
→約80%の学生が「積極的」に授業参加している

# 自主学習



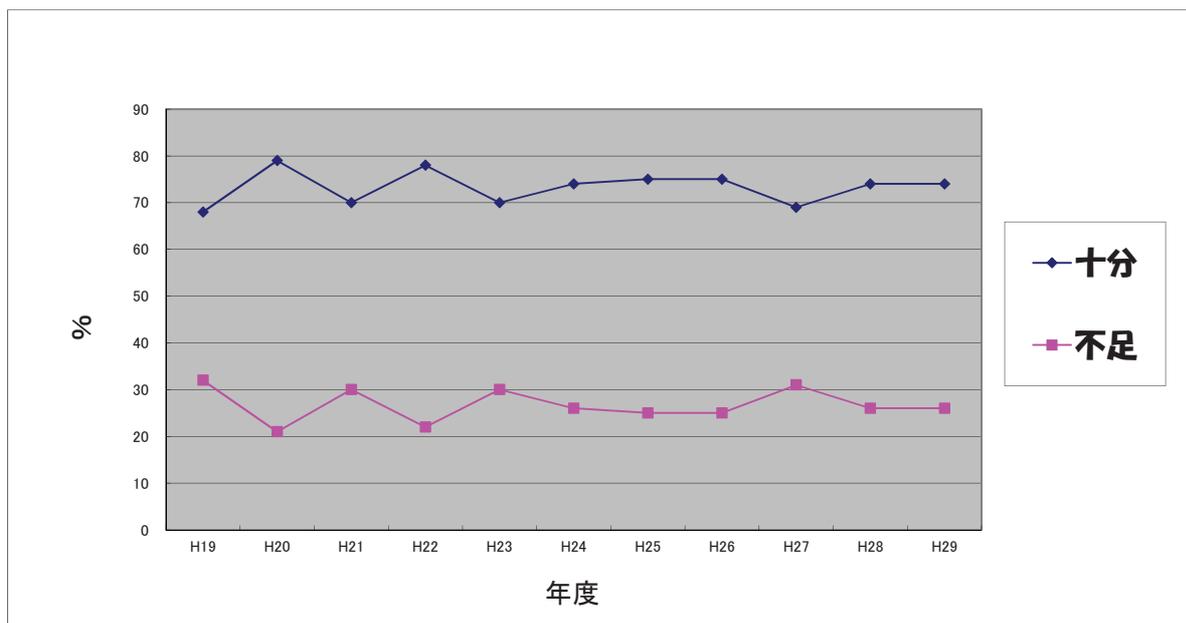
→約70%の学生が、授業以外にも課題、資格の勉強などを行ったことがある

# アルバイトをしているか



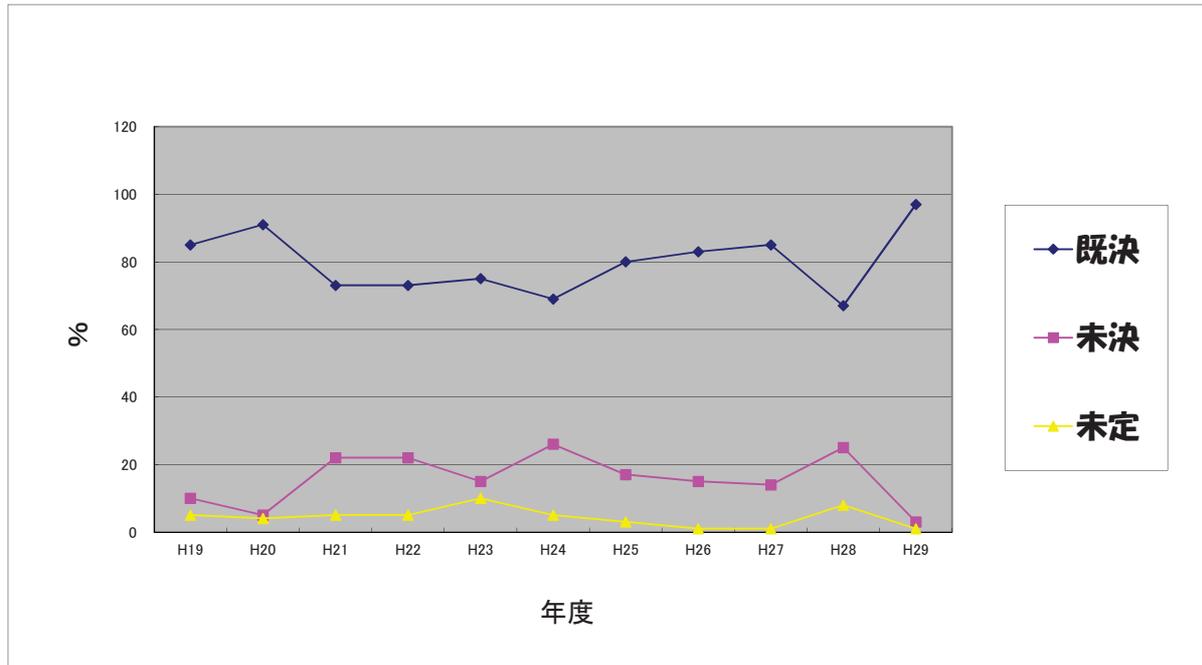
→全体の平均で、週に4~5日、1日4.5時間勤務が多い

# 睡眠時間は十分か？



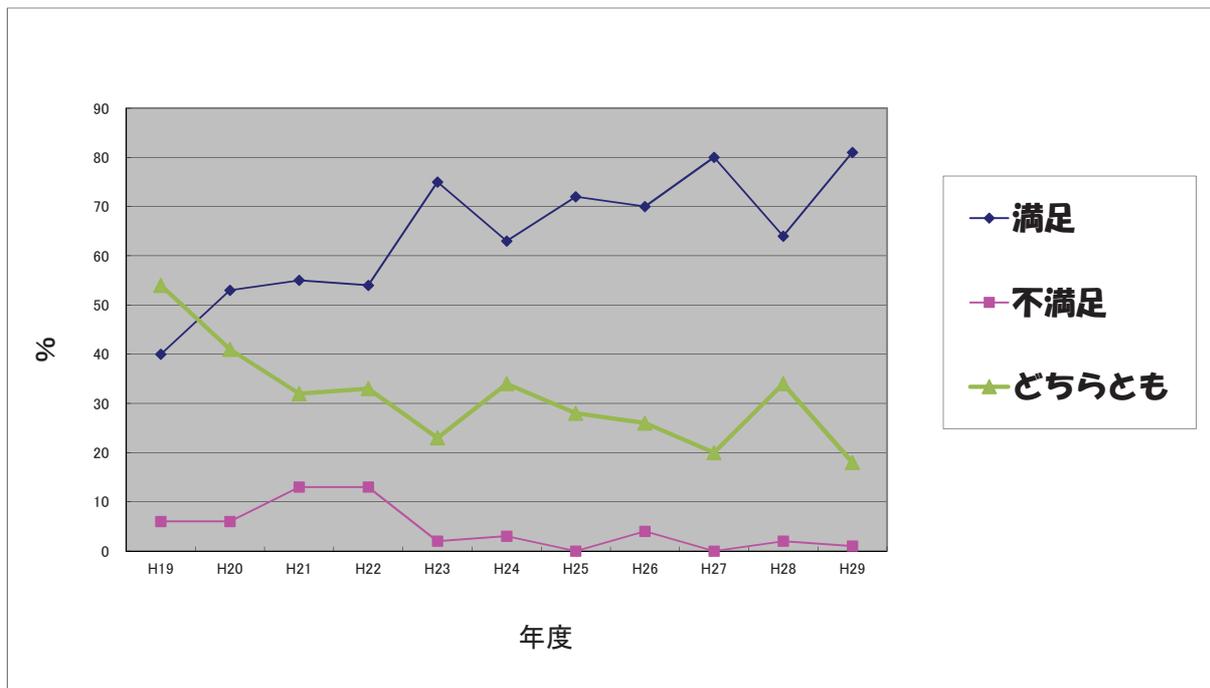
→今年度も約30%の学生が睡眠不足

# 就職内定状況



→対象学年において、97%の学生が内定獲得

# 就職満足度



→昨年と比較し、「満足」が大きく増加し、「不満足」が減少

# 平成 29 年度 学校改善自己評価結果（調査対象：非常勤を含む全教職員）

## I 自己評価の内容及び実施方法等

### 1 自己評価の内容

昨年度評価において、70ポイント以下の課題の見られた内容について、改善のための具体的方策を定め、その改善方策が実施できたどうかを評価した。

### 2 自己評価実施人数及び時期

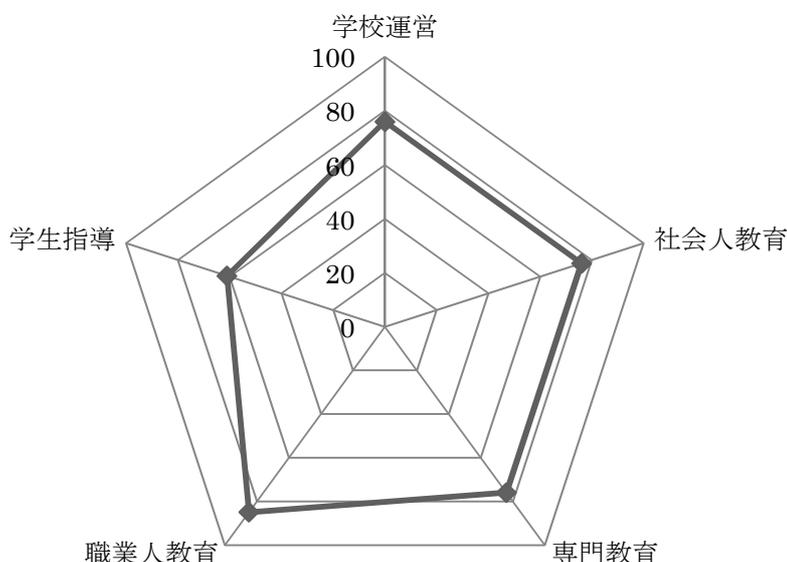
- (1) 自己評価実施人数：全教職員：46名  
(内訳 常勤講師：24名 非常勤講師：13名 事務系職員：9名)
- (2) 実施時期：平成30年1月22日～1月31日

### 3 評価実施方法

- (1) 評価方法  
5分野、20項目について、5段階評定尺度方により評価する。
- (2) 職域による評価項目
  - ①常勤講師は、5分野のすべての項目について評価する。
  - ②非常勤講師は、専門教育について評価する。
  - ③事務系職員は学校運営、社会人教育、学生指導について評価する。
- (3) 数量化の方法
  - ①「そう思う」の5レベルを100ポイントとし、項目ごとに合計ポイントを算出する。  
(4レベル：80ポイント、3レベル：60ポイント、2レベル：40ポイント、1レベル：20ポイント)
  - ②合計ポイントを評価者人数で割り、平均値を算出する。

### 4 自己評価の全体概要

- (1) 学校運営「トラブル対応・リスクマネジメント」：76ポイント（昨年度の状況69p：7p改善）
- (2) 社会人教育「規範意識」：76ポイント（昨年度の状況60p：16p改善）
- (3) 専門教育「授業中の態度」：76ポイント（昨年度の状況61p：15p改善）
- (4) 職業人教育「挨拶・礼儀」：85ポイント（昨年度の状況63p：22p改善）
- (5) 学生指導「駐車場・駐輪場管理」：61ポイント（昨年度の状況66p：5p悪化）



## 5 各項目の自己評価結果（最高 100 ポイント）

◇ 評価尺度 100：そう思う 80：ややそう思う 60：どちらともいえない  
40：ややそう思わない 20：そう思わない

### (1) 学校運営：「トラブル対応・リスクマネジメント」について（76 ポイント）

#### ア 学生間トラブルのリスクの低減（83 ポイント）

① 学生とのコミュニケーションを十分にとり、変化を見逃さない取組をしている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
88 ポイント	83 ポイント	76 ポイント	91 ポイント	80 ポイント

② 学生と強い信頼関係を築くよう努力している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
82 ポイント	80 ポイント	78 ポイント	94 ポイント	80 ポイント

③ リスクを予見するため、個人記録簿を作成している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
81 ポイント	88 ポイント	88 ポイント	77 ポイント	

④ トラブル発生に対応するための集団指導体制を確立している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
79 ポイント	80 ポイント	72 ポイント	89 ポイント	

#### イ 交通事故リスクの低減（64 ポイント）

① 排気騒音や改造車などの点検を定期的の実施している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報
62 ポイント	60 ポイント	58 ポイント		72 ポイント

② 日常的に安全運転の指導を行い、交通事故の減少に努力している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報
61 ポイント	67 ポイント	74 ポイント		64 ポイント

③ 交通ルールや事故発生時の対処方法の指導を行っている。（留学生関係科）

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	留学推進
72 ポイント			89 ポイント	48 ポイント

#### ウ 個人情報流出リスクへの対応（73 ポイント）

① 個人情報の学外への持ち出しを禁止する取組を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
75 ポイント	63 ポイント	90 ポイント	77 ポイント	64 ポイント

② 個人データには、パスワードを設定している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
71 ポイント	63 ポイント	84 ポイント	77 ポイント	56 ポイント

(2) 職業人としての規範意識の育成 (76ポイント)

①交通ルールや喫煙・ポイ捨てマナーなどを守れなかった学生には、厳しく自省を促す指導を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
79ポイント	83ポイント	78ポイント	89ポイント	68ポイント

②5S・6S（整理・整頓・清潔・清掃・躰・礼儀）の指導を徹底している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
73ポイント	63ポイント	74ポイント	86ポイント	65ポイント

(3) 授業中の態度 (76ポイント)

ア 居眠りへの対応 (76ポイント)

①対話型の授業を積極的に行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
82ポイント	67ポイント	80ポイント	87ポイント	

②映像や具体物など学生の興味を喚起する授業を工夫している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
78ポイント	77ポイント	78ポイント	82ポイント	

③居眠りがある場合は、授業の途中で、体ほぐしやストレッチをさせる時間を設けている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
64ポイント	60ポイント	62ポイント	67ポイント	

④生活習慣の乱れにより、居眠りする学生は、個別の生活相談を行ったり、保護者を交えて話し合ったりしている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
78ポイント	90ポイント	70ポイント	79ポイント	

イ 私語への対応 (81ポイント)

①私語をしている場合は、発言を求めたり、教科書を読ませたりしている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
85ポイント	83ポイント	72ポイント	92ポイント	

②注意しても私語をやめない場合は、ペナルティを課すなど厳しい指導を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
77ポイント	83ポイント	68ポイント	81ポイント	

ウ 携帯電話使用への対応 (72ポイント)

①預かり、電源オフ等の取組により、授業中に携帯電話の使用はなくなった。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
72ポイント	80ポイント	58ポイント	78ポイント	

エ 飲食行為への対応 (73ポイント)

①昼食時以外は、教室内での食事を禁止している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
71ポイント	63ポイント	56ポイント	81ポイント	

②机の上に飲食物があった場合は、授業を行わない、受けさせない取組を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
67ポイント	73ポイント	56ポイント	72ポイント	

③

③教員が率先して、教室内の整理・整頓・清掃に努めている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
82ポイント	80ポイント	78ポイント	85ポイント	

#### (4) 職業人としての挨拶等の礼儀 (85ポイント)

①授業の開始と終了時に分離礼を行い、学生の気持ちを引きしめている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
86ポイント	80ポイント	90ポイント	89ポイント	

②

②挨拶ができにくい学生には、個別指導を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
80ポイント	80ポイント	78ポイント	83ポイント	

③

③教師が率先して、積極的に挨拶を行なっている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報・留学
89ポイント	90ポイント	88ポイント	91ポイント	

#### (5) 駐車場・駐輪場の使い方 (61ポイント)

##### ア 駐車場 (留学生関係科以外) (62ポイント)

①学生が定期的に駐車場の清掃を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報
71ポイント	53ポイント	84ポイント		68ポイント

②

②登下校時などに場内監視を行い、違反者を摘発・指導している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	事務・広報
53ポイント	52ポイント	62ポイント		48ポイント

##### イ 駐輪場 (留学生関係科) (58ポイント)

①学生が定期的に駐輪場の清掃を行っている。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	留学推進
50ポイント			51ポイント	47ポイント

②週に1回程度、登下校時に駐輪の仕方を指導している。

全 体	建設学部	自動車学部	国際・日本語	留学推進
66ポイント			77ポイント	40ポイント

## 平成 29 年度 学校改善自己評価 考察

1 全体評価でポイントが高かった項目（80ポイント「ややそう思う」以上）

◇【課題解決に向けて改善が図られている内容が明確になっています。】

中項目	達成度	小項目	達成度
学生間トラブルのリスクの低減	83p	コミュニケーションによる変化を見逃さない取組	88p
		学生との強い信頼関係の構築	82p
		リスクを予見するための個人記録簿の作成	81p
		トラブル対応のための集団指導体制の確立	79p
私語への対応	81p	私語には、発言を求めたり、教科書を読ませる。	85p
		ペナルティを課すなどの厳しい指導を実施	77p
挨拶等の礼儀	85p	授業の開始・終了時に分離礼を実施	86p
		挨拶ができにくい学生への個別指導	80p
		教師が率先して、積極的に挨拶	89p

2 各学部等で特にポイントが高かった項目（90ポイント以上）

◇【学部の力を注いでいる内容が明確になっています。】

学 部	項 目	達成度
建設学部	居眠り学生への個別の生活相談や三者懇談の実施	90p
	教師が率先して、積極的に挨拶	90p
自動車学部	個人情報の学外への持ち出しを禁止	90p
	授業の開始・終了時に分離礼を実施	90p
日本語・国際	コミュニケーションによる変化を見逃さない取組	91p
	学生との強い信頼関係の構築	94p
	私語には、発言を求めたり、教科書を読ませる。	92p
	教師が率先して、積極的に挨拶	90p

3 学部等間で差が見られた項目（20ポイント以上の差）

◇【同じ学校であるのに、なぜ20ポイント以上、評価の差が生じたのでしょうか】

項 目	高い学部等	低い学部等	差
交通ルールや事故発生時の対処方法の指導	国際・日本語 89p	留学推進 48p	41p
個人情報学外への持ち出しを禁止	自動車学部 90p	建築学部 63p(事務)	27p
個人データへのパスワードの設定	自動車学部 84p	事務・広報・留学 56p	28p
交通ルール・喫煙・ポイ捨てへの厳しい指導	国際・日本語 89p	事務・広報・留学 68p	21p
5S・6S指導の徹底	国際・日本語 86p	建設学部 63p(事務)	23p
対話型の授業の積極的な推進	国際・日本語 87p	建設学部 67p	20p
居眠り学生への生活相談や三者懇談の実施	建設学部 90p	自動車学部 70p	20p
私語には、発言を求めたり、教科書を読ませる。	国際・日本語 92p	自動車学部 72p	20p
授業中の携帯電話の使用禁止の推進	建設学部 80p	自動車学部 58p	22p
昼食時以外の教室での食事禁止の推進	国際・日本語 81p	自動車学部 56p	25p
学生による定期的な駐車場清掃	自動車学部 84p	建築学部 53p	31p
週1回程度の駐輪指導	国際・日本語 77p	留学推進 40p	37p

4 各学部で特にポイントが低かった項目（60ポイント「どちらともいえない」以下）

◇【評価が低かった内容を改善するには、どのような取組をすればよいでしょうか】

学 部	項 目	達成度
建設学部	排気騒音や改造車などの定期的な点検実施	60p
	学生による定期的な駐車場清掃	53p
	登下校時の場内監視と違反者への指導	52p
自動車学部	排気騒音や改造車などの定期的な点検実施	58p
	授業中の携帯電話の使用禁止の推進	58p
	昼食時以外の教室での食事禁止の推進	56p
	机上に飲食物があった時は授業を受けさせない厳しい指導	56p
日本語・国際	学生による定期的な駐輪場清掃	51p
事務・広報・留学	個人データへのパスワードの設定	56p
留学推進	学生による定期的な駐輪場清掃	47p
	週1回程度の駐輪指導	40p

5 各学部・学科・課が平成30年度に取り組む課題

課 題	評価が低かった学部・学科・課				
	建 設	自 動 車	国 際	事 務	留 学
①個人情報流失リスクへの対応	○			○	○
②自動車や自転車・駐車場・駐輪場の管理	○	○	○	○	○
③授業中の携帯電話の使用禁止		○			
④昼食時以外の教室内での食事の禁止	○	○			
⑤5S・6S指導の徹底	○			○	○

# 学校自己評価に基づくアクションプラン 2018

## 1 学校生活面

プラン項目	喫煙マナーの徹底
プラン内容	①ルール of 徹底 (入学時、進級時に必ずおとし込む) ・喫煙場所以外での喫煙の禁止 (車内も含む) ・火をつけてなくても、くわえタバコは全面禁止 ②違反を発見した場合は、学生指導部に報告 (懲戒を加える)
推進職員	学生指導部を中心とした全教職員
進行管理	奇数月の校務運営委員会で学生指導部長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	定期的な駐車場清掃の実施
プラン内容	①契約前指導を行い、駐車場の使い方・マナーを指導 ②学生による駐車場清掃 (学部でローテーション) ・第1週の金曜日: 建設学部 ・第2・3・4週の金曜日: 自動車学部 ③職員朝礼で当番講師が報告 (学生リーダーは担当講師に報告)
推進職員	建設学部・自動車学部
進行管理	奇数月の校務運営委員会で学部長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	駐車場と学生自動車の管理
プラン内容	①騒音やゴミ等のマナー違反や違法改造しないよう誓約書を提出 ②定期的に校門指導を実施 ・第1週の火曜日: 建設学部 ・第2・3・4週の火曜日: 自動車学部
推進職員	建設学部、自動車学部 (誓約書については総務課)
進行管理	奇数月の校務運営委員会で学部長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	留学生の交通ルール指導や事故発生時の対応策及び駐輪場清掃
プラン内容	①週1回、当番制による駐輪場指導・清掃の実施 ②事故発生時の対応についてのマニュアルを作成 (各言語ごと)
推進職員	留学推進課、日本語学科、国際コミュニケーション学科、国際自動車学科
進行管理	奇数月の校務運営委員会で関係学科・課長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	違法電動自転車対策
プラン内容	①入学前オリエンテーションで徹底 ②関係科・課による月1回の違法電動自転車チェック (学生寮)
推進職員	留学推進課、日本語学科、国際コミュニケーション学科、国際自動車学科
進行管理	奇数月の校務運営委員会で関係学科・課長が現状と対応策を報告・相談

## 2 学修指導

プラン項目	授業中の携帯電話の不適切使用
プラン内容	①講師はためらわず厳しい注意を行う。(触らせない指導) ②校内ルールに懲戒処分を行う旨を明記
推進職員	学科長を中心とした全講師
進行管理	偶数月の校務運営委員会で学科長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	居眠りへの対応
プラン内容	①学生個人の個別指導 ②保護者への報告と協力依頼 ③改善しない学生に対しては、三者面談の実施
推進職員	学科長を中心とした全講師
進行管理	偶数月の校務運営委員会で学科長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	5 S・6 Sの徹底
プラン内容	①実習前に5 S・6 Sを唱和させる。 ②週1回の教室・廊下・トイレ・喫煙所付近の清掃とチェック ③各学級に5 S・6 S委員を決め、学生全員で推進
推進職員	学科長を中心とした全講師
進行管理	偶数月の校務運営委員会で学科長が現状と対応策を報告・相談

## 3 個人情報及びデータの管理

プラン項目	個人情報の管理
プラン内容	①個人情報サーバーに保存を統一 ②サーバーへのアクセス権を制限(アカウントごとにランク付け) ③名前、数字等の個人情報が記入された用紙はシュレッダー(裏紙にしない)
推進職員	総務課・企画広報課を中心に全職員
進行管理	奇数月の校務運営委員会で学科長が現状と対応策を報告・相談

プラン項目	共有・保存サーバーの管理・改善
プラン内容	①ファイルごとにアクセス権を設定 ②保管方法についてのマニュアルを作成 ③8月のPC入れ替えを目途にサーバーを改善 ・4月：サーバーを部署ごとに分けて作成(ファイルの統一) ・5月・6月：必要なファイルを部署ファイルに移動(移動していないファイルは廃棄) ④許可なく勝手にファイルを作らない。
推進職員	総務課・企画広報課
進行管理	奇数月の校務運営委員会で学科長が現状と対応策を報告・相談

## 平成 29 年度学校関係者評価委員会の概要

### 1 開催日時

平成 30 年 6 月 8 日（金） 16:00～17:30

### 2 出席者

委員 6 名（企業・業界関係者 2 名、高等学校関係者 1 名、保護者代表 1 名、卒業生代表 2 名）

### 3 内容

- (1) 学生評価結果について
- (2) 学校改善評価結果について
- (3) 学校改善評価結果の考察について
- (4) 学校自己評価に基づくアクションプラン 2018 について

### 4 会議概要 I : 「学生評価」

#### (1) 事務局の説明

知識の習得、資格取得数、学校生活の充実度、出席率、授業への積極性、自主学習、アルバイト、睡眠時間、就職内定状況、就職満足度の 10 項目について、学生の意識を調査した。全体的に昨年度とほぼ同様の結果であった。（別添、学生評価結果参照）

#### (2) 委員の意見

項 目	意 見
就職満足度①	近年、若い年齢層の離職率が問題となっている。当校では、就職内定段階の学生の意識を調査し、80%以上の高い満足度となっているが、就職後の状況を追跡調査することも重要である。就職して 4～5 ヶ月経過した段階で郵送調査する方法も考えられる。

就職満足度②	<p>離職率が問題となる中、特に、他業種に転職している場合がある。専門学校で資格を取得し、専門職として期待されているのに、離職後に資格とは関係ない職業についている。</p> <p>就職数ヵ月後の調査で、離職していることが分かった場合、既に卒業していても、学校が就職相談を行い、資格を生かした職種に就くよう指導することが必要である。その場合、業界も学校と共に、再就職の支援を行っていく。</p>
睡眠時間	<p>睡眠不足と回答した学生が 25%程度いるが、これはアルバイトや夜遅くまで携帯電話を使用していることが原因と考えられる。睡眠が十分でない学生は、授業中に居眠り等の影響が出る。専門学校に進学しても、保護者と連携して生活指導を行うことが必要である。</p>

5 会議概要Ⅱ：「学校改善自己評価」及び「学校自己評価に基づくアクションプラン 2018」

(1) 「学校改善自己評価」に関する事務局の説明

5分野、28項目について教職員46名が評価した。

学校運営、社会人教育、専門教育、職業人教育は、昨年度と比較し、7ポイントから22ポイント高くなっており、昨年度の学校自己評価の結果を踏まえ、改善に取り組んだことが効果を上げている。(別添、学校自己評価結果参照)

しかし、学生指導の項目は、5ポイント低下しており、特に、駐車場・駐輪場の使用に課題が見られる。

また、評価結果が、学部によって20ポイント以上の差が生じている項目があり、その原因を検討していく必要がある。

改善が図られている内容	学部によって差が生じている内容	評価が低かった内容
①学生間トラブルのリスクの低減 ②授業中の私語への対応 ③挨拶等の礼儀	①個人情報流出リスクへの対応 ②授業中の携帯電話の使用禁止 ③学生による定期的な駐車場清掃 等	①自動車・自転車及び駐車場・駐輪場の指導・管理 ②居眠りへの対応 ③5S・6S指導の徹底

(2) 「学校自己評価に基づくアクションプラン 2018」に関する事務局の説明

上記の課題を解決するため、具体的な行動計画を立てて、改善を進めている。

改善項目（概要）	行動計画（概要）
自動車・自転車および駐車場・駐輪場の指導・管理	①学生による定期的な駐車場・駐輪場清掃 ②定期的な校門指導
授業中の携帯電話の不適切指導	①学科の実情を踏まえた徹底した指導 ②ペナルティーを課す学則の改正
居眠りへの対応	①生活改善を行うための学生への個別指導 ②保護者を交えた三者懇談の実施
5 S ・ 6 S の徹底	①実習前の 5 S ・ 6 S の唱和 ②学生 5 S ・ 6 S 委員の任命と委員を中心とした 5 S ・ 6 S の推進
個人情報及びデータの管理	①ファイルごとにアクセス権を設定 ②個人情報を含めたサーバーへの保存方法マニュアルの作成と管理

(3) 委員の意見

項 目	意 見
個人情報の管理	事務室が中心となり、個人情報の管理を推進する必要がある。
改善のためのペナルティー	厳しい指導も必要である。しかし、最近は厳しい指導を受けていない子どもも多く、叱られるとへこんでしまう場合がある。日常から学生との人間関係をつくっておくことが重要である。
改善への取組方法	教員に指示されて行うのではなく、この場合は「何をすべきか、どうすべきか」を考えさせ、改善に向けた主体的な行動を促すと、「やらされる感」がなくなり、学校全体がよくなっていく。